

会議録

1. 附属機関の名称 : ヒツバタゴ保存活用計画策定委員会
2. 開催日時 : 令和4年9月29日(木) 午後7時00分から午後8時30分まで
3. 開催場所 : 犬山市役所 2階 205会議室
4. 出席した者の氏名
 - (1) 委員 林進、増田理子、玉木一郎、赤塚次郎、半谷美野子
 - (2) 執行機関 中村教育部長
歴史まちづくり課 加藤課長、渡邊課長補佐、中村主査補、大前主事補
 - (3) その他 オブザーバー 愛知県民文化局文化部文化芸術課文化財室 技師 山内
5. 協議事項
 - (1) 天然記念物ヒツバタゴ自生地の現状
 - (2) 天然記念物ヒツバタゴ自生地環境調査
 - (3) 天然記念物ヒツバタゴ自生地保存活用計画
6. 会議要旨
 - (1) 天然記念物ヒツバタゴ自生地の現状について
(事務局より資料に基づき、天然記念物ヒツバタゴ自生地の現状について報告)
委員 1:ヒツバタゴ自生地は隔離分布だが、どこからきたのか。
委員 2・3:対馬の個体は大陸系である。東海地区の個体は、鳥散布の可能性もあるが、かつて日本中にあった個体が徐々に無くなっていき、残ったものではないかと考えられる。
委員 長:ヒツバタゴ、ハナノキ、マメナシ等の分布は関連している。つながりがわかると面白い。

委員 1:ヒツバタゴ自生地の北側にあるハナノキは自生のものか。
委員 3:恐らく自生の個体であると思われる。

委員 1:ヒツバタゴ自生地の見学者は車を停車してもいいのか。開花シーズン以外はどれくらい利用

者・見学者がいるのか。最近、周辺の植物が減っているものがあるので、盗掘があるかもしれない。カザグルマ等の貴重植物が無くなると問題である。

事務局:活用にあたっては、活用エリアや道路をどうするのか広い視点で考える必要がある。

(2) 天然記念物ヒツバタゴ自生地環境調査

(事務局より資料に基づき、天然記念物ヒツバタゴ自生地環境調査について報告)

委員 4:本宮山周辺の地質図はできている。地質は遺跡の分布とも関係している。詳細な調査をしてはどうか。

委員 長:ヒツバタゴ自生地は花崗岩地帯に自生する。北側が花崗岩、南側が層状チャートになっており、地質の境目に根を生やす。マメナシも同様である。

委員 長:自生地の地下水位はある程度調べてあるが、もう少し地下構造を調査してはどうか。

委員 2:土壌調査を行うなら、土中の有機物量がわかることから強熱減量を調査するとよい。

委員 2:土壌の調査箇所を増やしてはどうか。

事務局:想定は自生地の上流・下流の2箇所である。

委員 長:ヒツバタゴの生育と太陽の光は関係があることから、光環境の調査(スペクトル調査)をしてはどうか。

委員 長:動物調査のうち昆虫の調査は難しい。ヒツバタゴの繁殖には影響していないと思われる。

委員 3:ヒツバタゴは個体の性別は調査しているのか。

委員 長:性別は調査していない。

委員 3:実生個体と成木個体の遺伝子調査を行い、親子関係を調査してはどうか。調査することで、実生個体を間引く際に参考になる。

委員 長:ヒツバタゴは種を植えてもなかなか発芽しない。自然発芽は3年程度で発芽する。

委員 1:街路樹や自生地の北側の土地のヒツバタゴはどのように増やしたのか。

委員 2:恐らく挿し木である。イナザワで苗木を作っている。

委員 長:重力散布での更新は岐阜県下では見られない。土岐のヒツバタゴは発芽したが、大きくなるまでに枯れてしまっている。

委員 3:庭木や街路樹のヒツバタゴは実が多くなり、落ちるが、逸出個体は多くない。近親での結実による発芽は難しいかもしれない。

委員 1:利用状況調査は車の利用や、見学者の利用状況を確認するのか。

(3) 天然記念物ヒツバタゴ自生地保存活用計画

(事務局より資料に基づき、天然記念物ヒツバタゴ自生地保存活用計画について報告)

委員 4:策定期間が短いのではないか。

委員 1:地域を巻き込まないと動ける人がいない。

委員 2:愛知県の環境部が企業とのマッチングを行っているため活用するとよい。

委員 4:令和6年度以降も継続した調査が必要である。

○その他

※現地指導を11月25日、第2回委員会を2月10日に予定。